令和６年３月１５日（金）卒業式

風吹かば風　雪降らば雪

（前略）１５５名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。卒業する赤学年は、互いを思いやる優しさにあふれ、よくまとまった学年でした。昨年度来、生徒会が改定した生活指針「時・場・礼」の取組みを、学校の中核となって推進しました。特に、「時・場・礼」の「場（場を清め）」の中でも「黙隅清掃」はすばらしかったです。黙々と隅々まで丁寧に清掃する姿は他の学年の模範でした。皆さんは、もともとあった規則や決まりを守ること、つまり「他律」ができるだけでなく、自分たちの力で三尻中学校をよりよい学校にしたいという気概にもあふれていました。だからこそ、「他律から自律へ」のスローガンのもと、生徒の生徒による生徒のための「校則改定」を進めることができたのです。皆さんのあとを引き継いだ在校生が、来年度早々の生徒総会での提案に向けて、新しい校則の素案をまとめているところです。併せて、新生・三尻中学校を象徴する新しい制服作りのスタートを切ることもできました。

三尻中学校は、これからも地域とともに、時代の要請に合わせ、進化・変化を続けていきます。ただ、変わらないこともあります。校歌はその１つです。多くの卒業生が、歌い継いできた校歌に込める思いは、そんな簡単に変わるものではありません。卒業し、どれだけ年月が経とうとも、校歌を口ずさめば一瞬で、中学校時代の思い出が、学びが、よみがえってきます。皆さんにはここで、校歌の歌詞のある部分に注目してもらいたいと考えています。それは、２番の歌詞「風吹かば風　雪降らば雪」の部分です。「風吹かば風　雪降らば雪」とは、一体どのような意味なのでしょうか。

皆さんが歩んでいく人生には、楽しいこと、うれしいことがたくさんあるはずです。それを気象になぞらえ「晴れ」と表現するとします。反面、人生には苦しいこと、悲しいことも訪れます。その状況を「風が吹く」「雪が降る」と例えていると考えたらどうでしょうか。人生の中では、例え風が吹き荒れていても、その風を受け止め、ゆっくりでもいいから力強い一歩を踏み出すことが必要なときもあります。またあるときは、風を遮る場所に避難した方がいい場合もあると思います。「風吹かば風」とは、風が吹けば、風が吹いたなりに対処することを意味すると考えました。この歌詞について考える際に、真っ先に頭に浮かんだのは、作家・吉川英治さんの言葉です。「晴れの日は晴れを愛し、雨の日は雨を愛す。楽しみあるところに楽しみ、楽しみなきところに楽しむ。」という言葉です。風が吹いているならば、その風を楽しむ、雪が降っているのならば、その雪を楽しむ、そんな心持ちでいたいものです。これから先、校歌を歌うとき、今のお話を少しでも思い出してくれたなら、大変うれしく思います。（中略）

明るい未来のため、自分で決めた進路に第一歩を踏み出す卒業生に、改めて「幸多かれ」と祈り、式辞といたします。

熊谷市立三尻中学校長　　田沼良宣